

授業科目名・形態	文章表現	講義	必修・選択の別	必修	単位数	2
担当者氏名	越後 美緒子		実務経験の有無	有	開講期	1年前期

### 【授業の主題】

多様な情報が行き交う現代社会では、誰もが「読む」「聞く」「書く」「話す」などの言語活動を通して、物事を正しく認識・判断するとともに、みずから適切な発信ができる能力を身につけなければならない。

医療・福祉・保健等に携わる専門家は、人々の心身の健康や安全を支える重要な使命を負っている。その活動を将来にわたって充実・発展させるために必要な、実践的な文章表現力を要請する。

### 【到達目標】

- 1) 言葉に対する意識を高め、自身の文章表現力を診断して、今後の学習課題をつかむ。
- 2) その課題の達成方法を見出し、具体的な計画を立てる。
- 3) その計画を試行し、成果を検証してみる。

### 【授業計画・内容】

第1回	〔授業計画・内容の概説〕	医療・福祉と「文章表現」
第2回	〔表現学習の方法〕	日常生活における「文章表現」
第3回	〔日本語の特性と現状〕	和語、漢語、カタカナ語、略語
第4回	〔表現の種類と特色①〕	話し言葉（敬語を中心に①）
第5回	〔表現の種類と特色②〕	話し言葉（敬語を中心に②）
第6回	〔表現の種類と特色③〕	書き言葉（手紙を中心に）
第7回	〔文章の基礎①〕	語彙を増やす 語彙を選ぶ
第8回	〔文章の基礎②〕	表現の要点（正確・簡潔・平明①）
第9回	〔文章の基礎③〕	表現の要点（正確・簡潔・平明②）
第10回	〔小論文の作成①〕	レポートと論文 主題の選定
第11回	〔資料の収集と活用〕	収集・保存の実際 新聞資料の活用
第12回	〔文章の構成と展開①〕	論証の進め方 例示・引用
第13回	〔文章の構成と展開②〕	構成案の作成 「段落」の重要性
第14回	〔小論文の作成②〕	事実と意見 独自性と説得力
第15回	〔小論文の作成③〕	表記のルール 推敲 提出時の留意事項

【授業実施方法】 講義と演習を組み合わせる。

【授業準備】 毎回ごとに次回の予習課題を与え、それをもとに授業を進める。

【主な関連する科目】 「コミュニケーション論」「社会学」「文学」等。

【教科書等】 特定のものを使用せず、毎回ごとに、授業内容に即した教材を配布する。

【参考文献】 国立国語研究所・日本新聞協会・日本看護協会出版会等の刊行資料 他。

【成績評価方法】 定期試験 70%、小論文 20%、演習課題 10%、として評価する。

### 【実務経験及び実務を活かした授業内容】

- ・日本新聞協会主催・文部省後援全国指導教官研修会等で講師を務める。
- ・県図書館部会主催「読書感想文コンクール」県審査委員としての経験。
- ・医療・福祉の分野における、言語表現の重要性、有効性に気付かせ、学習が将来の言語活動の向上につながるよう意識して、実践的に指導したい。
- ・多様な情報を正しく読み取り、学習や生活、仕事に活用するための、「メディアリテラシー」を身につけさせたい。

### 【学生へのメッセージ】

- ・文章には、一人一人の持つ知識や関心の傾向、課題に対する思考力や解決能力などが、総合的に映し出されます。文章表現力を磨くことは、「人間を磨く」ことにもつながります。
- ・誠実な努力を傾けて受講してきた先輩学年の学生諸君に続いてほしいと、期待しています。